

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年5月8日

予報期間：5月10日～6月9日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

期間の前半は、全国的に気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

東・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報

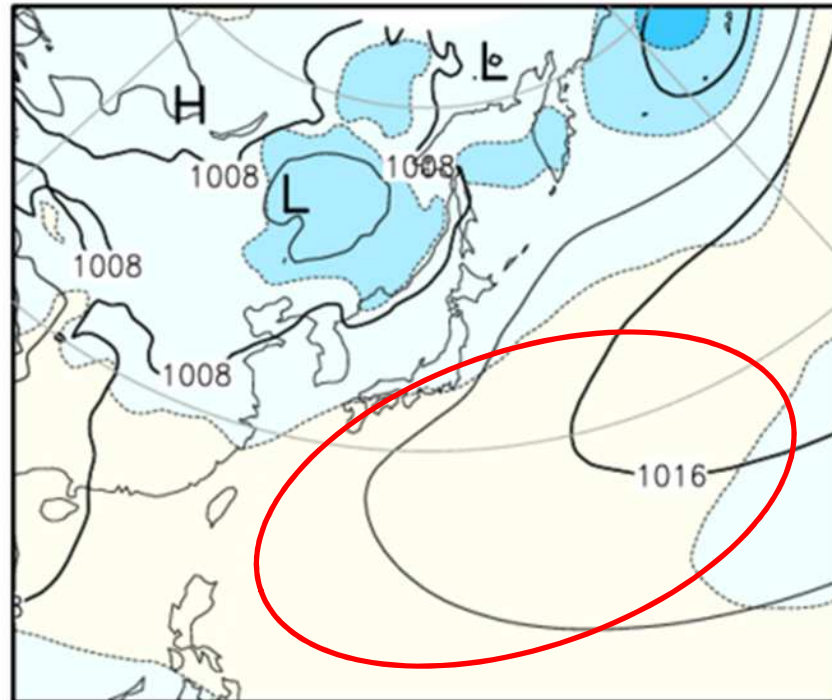
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:20:70	30:30:40 30:30:40	40:30:30 40:30:30	
東日本	日本海側 太平洋側	10:20:70	20:40:40 20:30:50	40:40:20 50:30:20	
西日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	20:40:40 20:40:40	40:40:20 40:40:20	
沖縄・奄美		20:30:50	30:30:40	30:30:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	10:20:70	20:30:50
東日本	10:10:80	10:20:70	20:30:50
西日本	10:30:60	10:20:70	20:30:50
沖縄・奄美	30:50:20	10:30:60	20:30:50

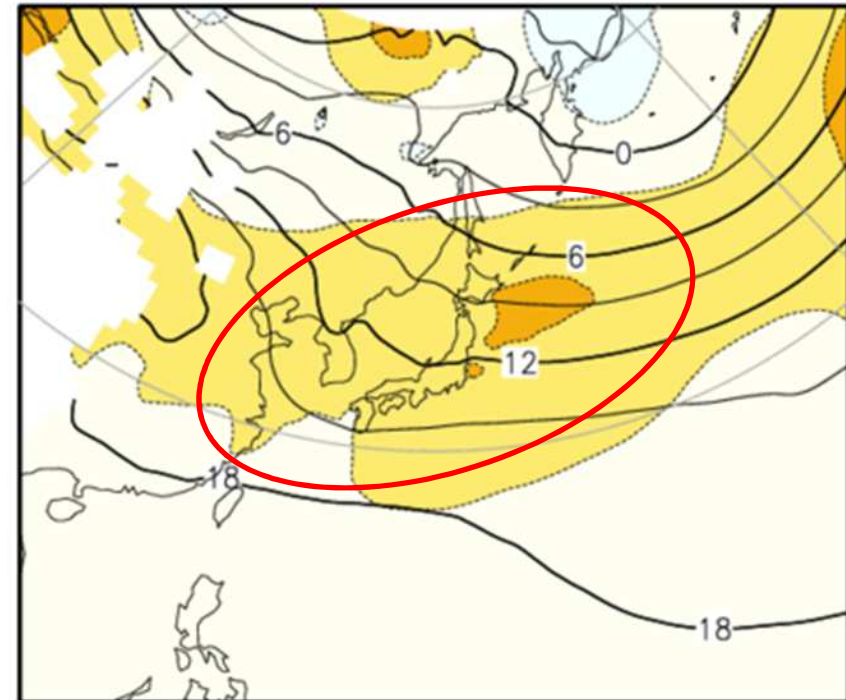
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、全国的に暖かい空気に覆われやすいため高く、特に期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- ・湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は東日本太平洋側で多く、東日本日本海側と西日本では、平年並が多いでしょう。また、日照時間は、東日本太平洋側で少なく、東日本日本海側と西日本では、平年並か少ない見込みです。

海面気圧(1か月)

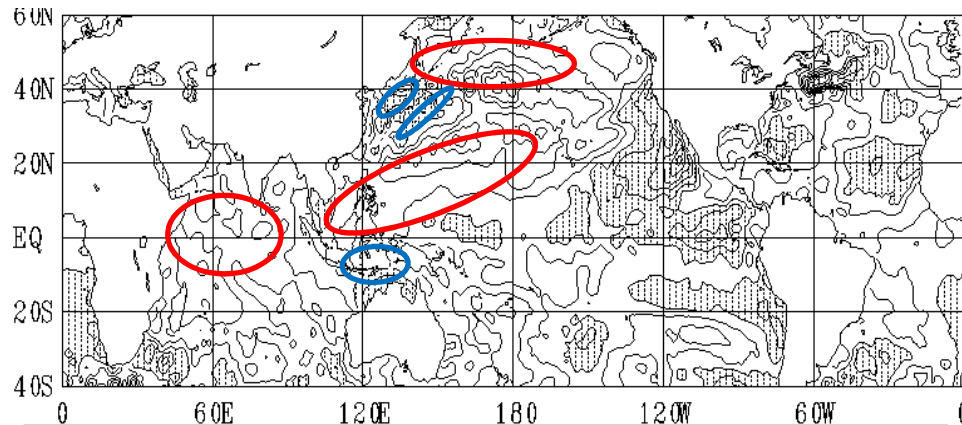


上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、日本の南で高く、日本の南東海上で高気圧の西への張り出しが強まる時期がある見込みです。このため、東・西日本を中心に、高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。上空約1500mの気温(右図)は、日本付近は、広い範囲で平年より高く、暖かい空気に覆われやすいでしょう。

SST偏差

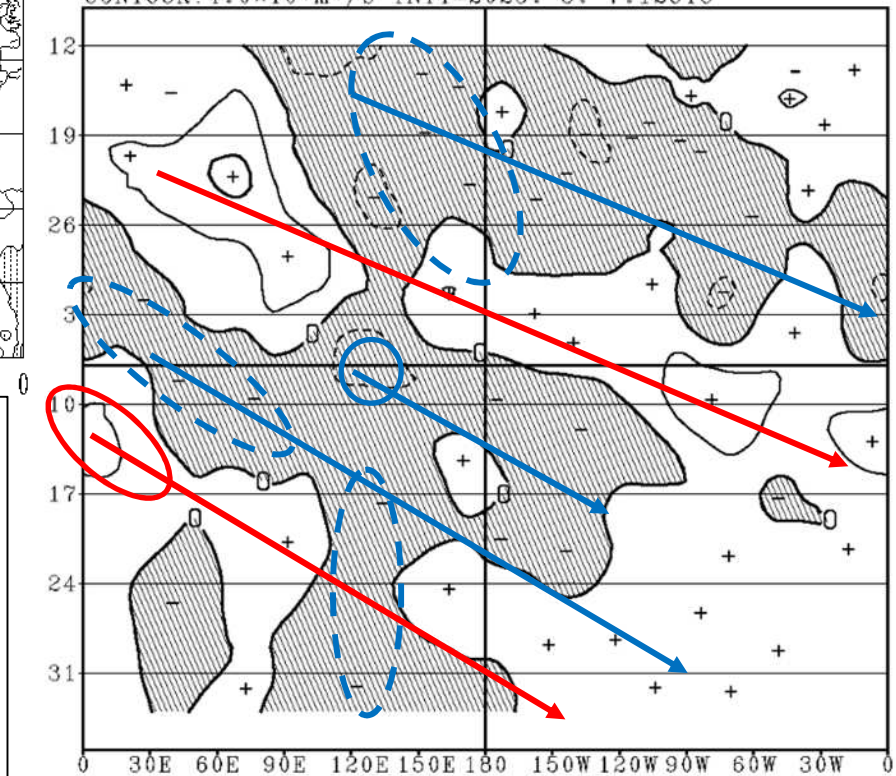


熱帯域では、インド洋西部と南シナ海からフィリピンの東にかけて正偏差。一方、インドネシア付近で負偏差。

日本付近では、日本海中部と西部のほか、本州南岸付近で負偏差、日本海北部から日本の東にかけて正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差

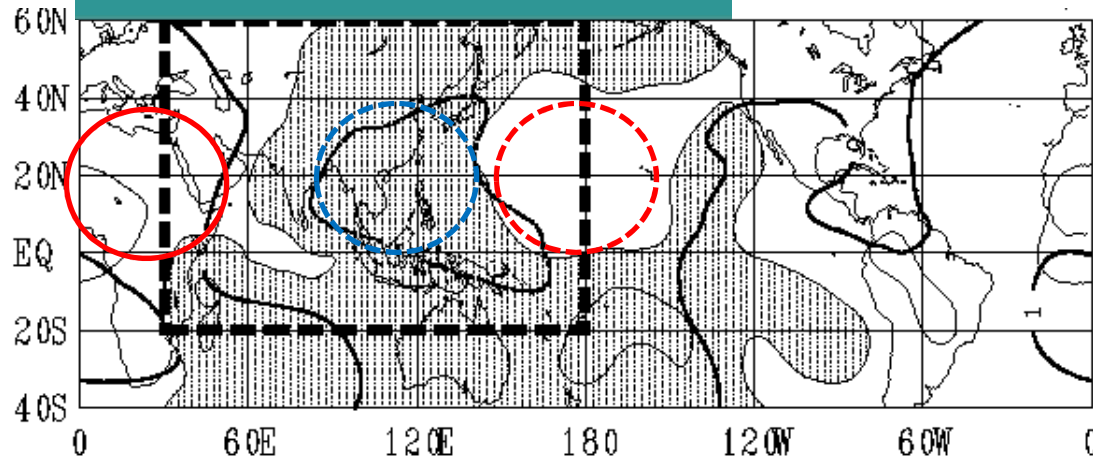
200hPa速度ポテンシャル偏差 (5N-5S) アフリカ平均
CONTOUR: $4.0 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ INIT=2025. 5. 7. 12UTC



熱帯季節内変動に伴い、1週目はインドから東南アジア付近、2週目以降はインドネシア付近で対流活動がやや活発。

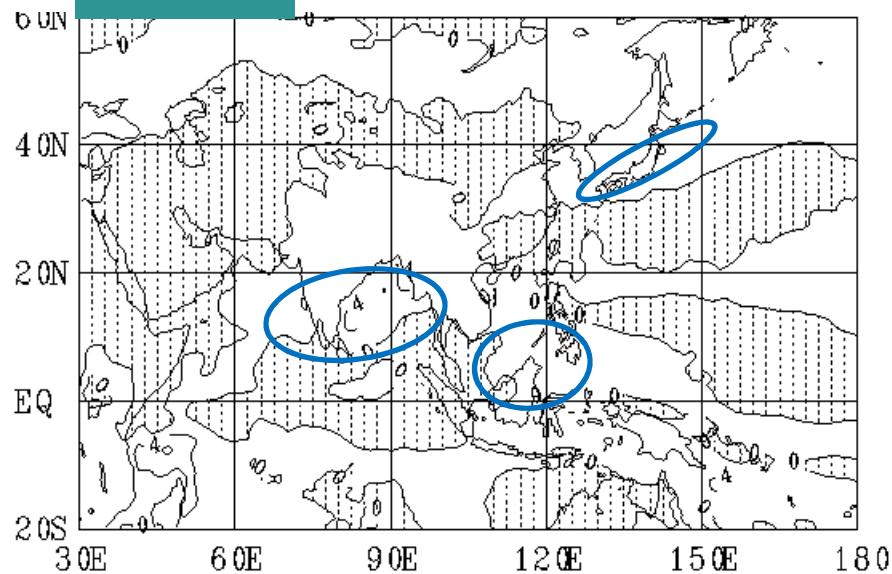
予報資料の解釈 1か月(5/10~6/6)

200hPa速度ポテンシャル



アフリカ付近で上層収束偏差。
また、インドからフィリピン付
近にかけて上層発散偏差、
日付変更線付近では上層収
束偏差だが、偏差は小さい。

降水量

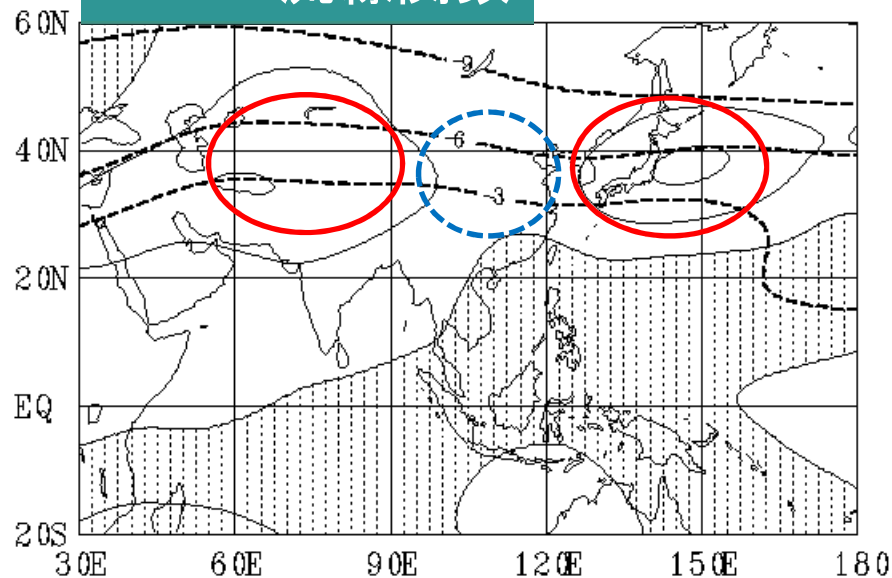


インド付近と東南アジア付近で
多雨偏差。日本付近でも東・西
日本を中心に多雨偏差。

熱帯の季節内変動に伴うインドから東南アジア付近
にかけての対流活動の活発化で、夏のアジアモン
スーン循環が一時的に強まることを予測している。

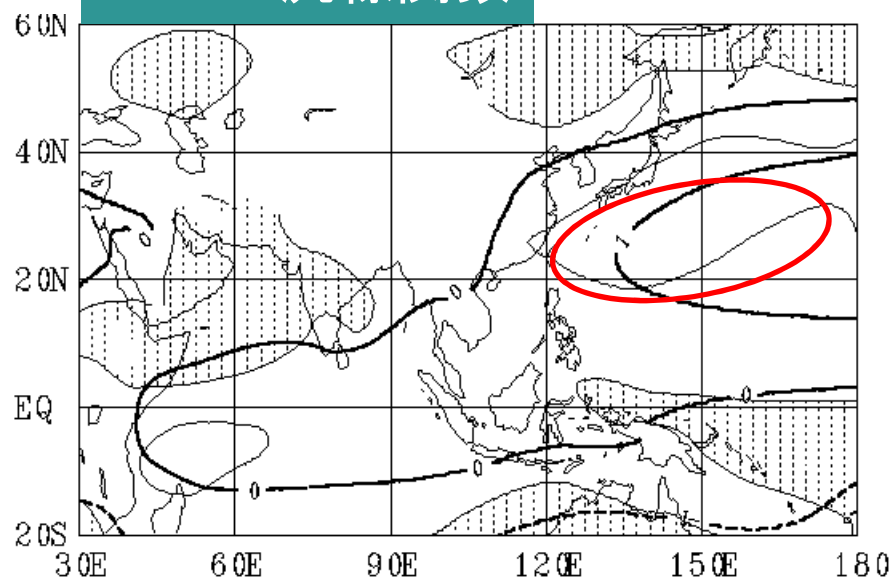
予報資料の解釈 1か月(5/10~6/6)

200hPa流線関数



インドから東南アジア付近の対流活発に対応して、中央アジア付近で高気圧性循環偏差、中国東北区付近で相対的な低気圧性循環偏差。
日本付近では、高気圧性循環偏差。

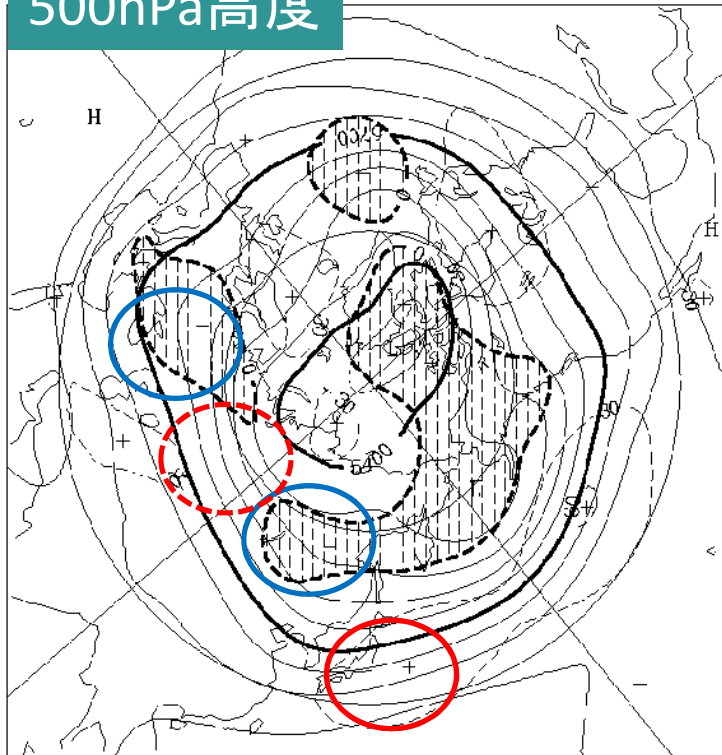
850hPa流線関数



日本の南東海上を中心に高気圧性循環偏差。

予報資料の解釈 1か月(5/10~6/6)

500hPa高度

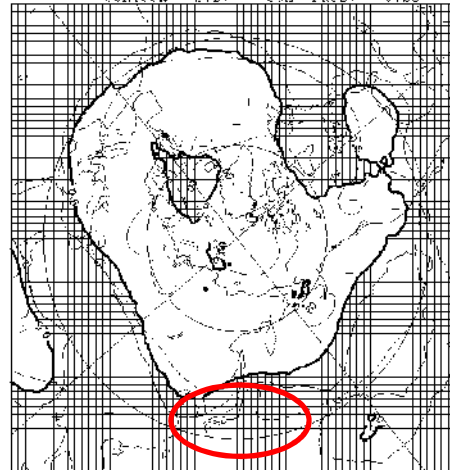
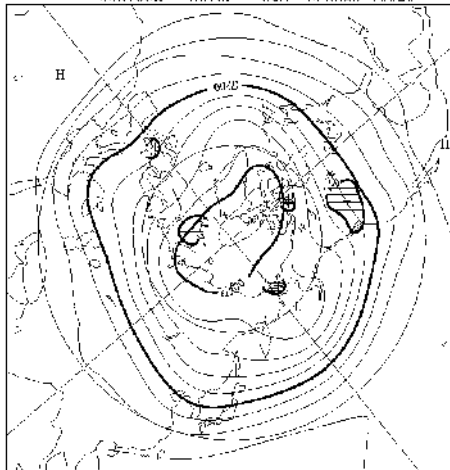


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 40m SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 20m PROB: 0.25

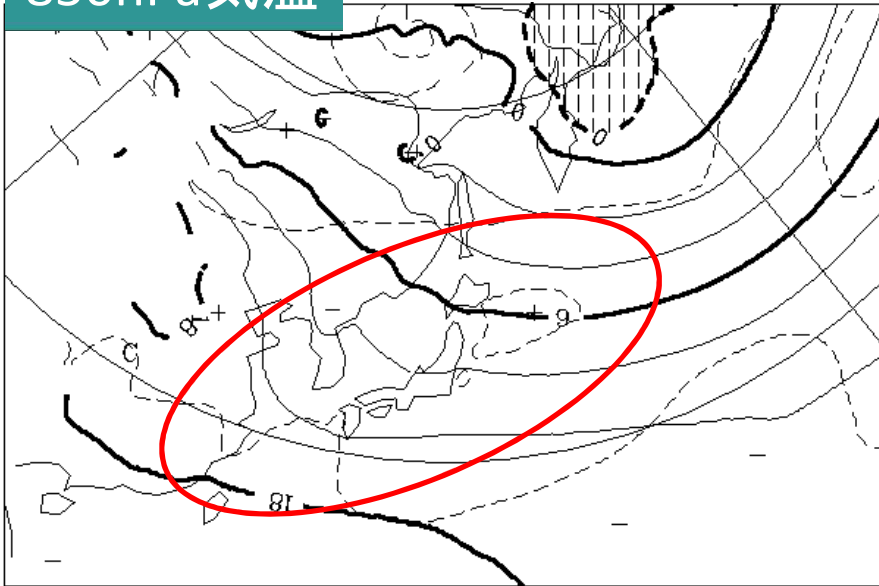


ロシア西部から寒帯前線ジェット気流に沿った波束伝播の影響で、日本の南東海上では正偏差。

日本を含む広い範囲で正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

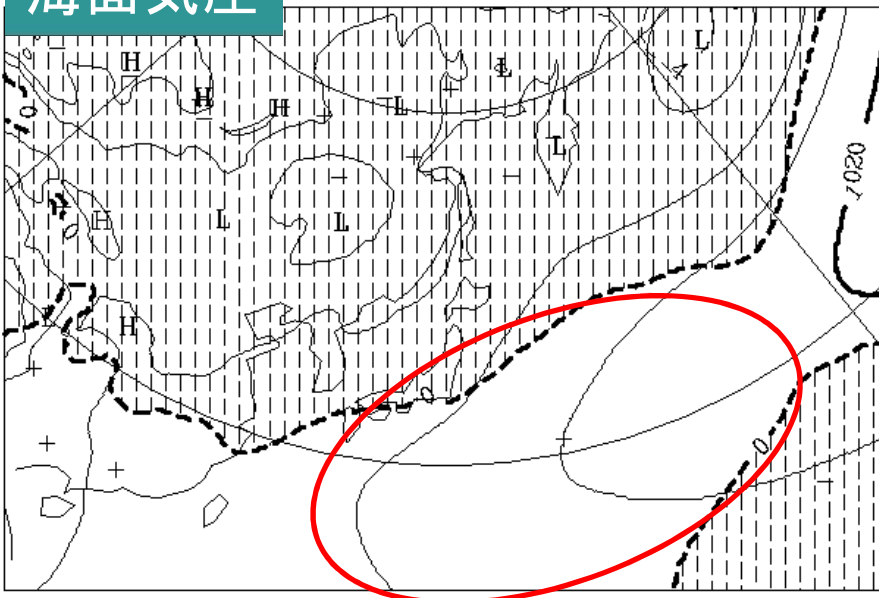
予報資料の解釈 1か月(5/10~6/6)

850hPa気温



日本を含む広い範囲で正偏差。

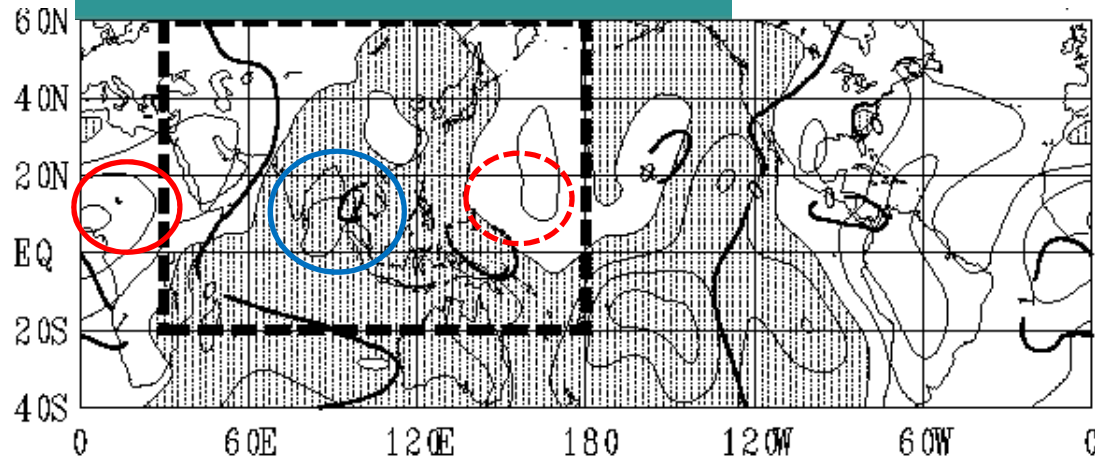
海面気圧



日本の南東海上で高気圧が西への張り出しを強めるため、日本付近は南高北低の気圧配置となり、東・西日本を中心に暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

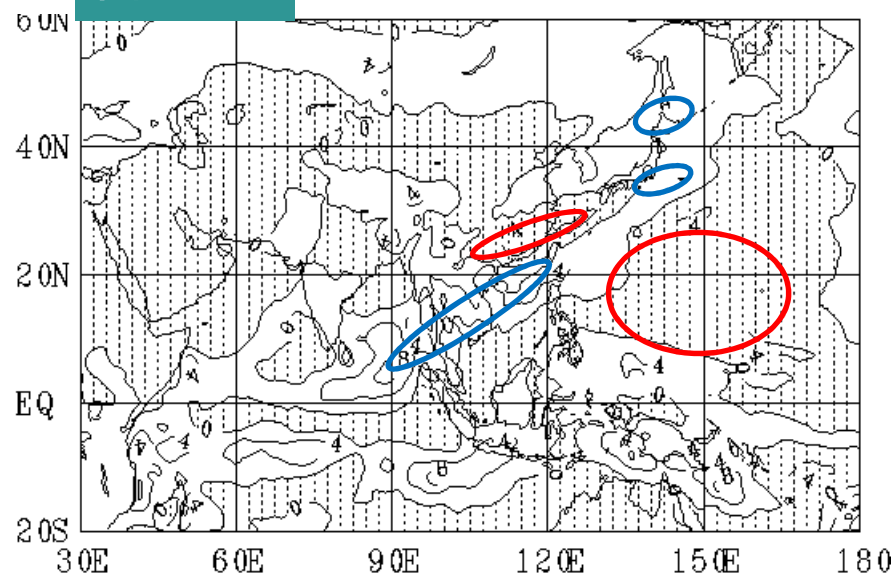
この高気圧の強まりには、寒帯前線ジェット気流に沿ったロスビー波東伝播も寄与している。

200hPa速度ポテンシャル



アフリカ付近で上層収束偏差。
インド洋から東南アジアにか
けて上層発散偏差、フィリ
ピンの東では上層収束偏差だ
が、平年からの隔たりは小さ
い。

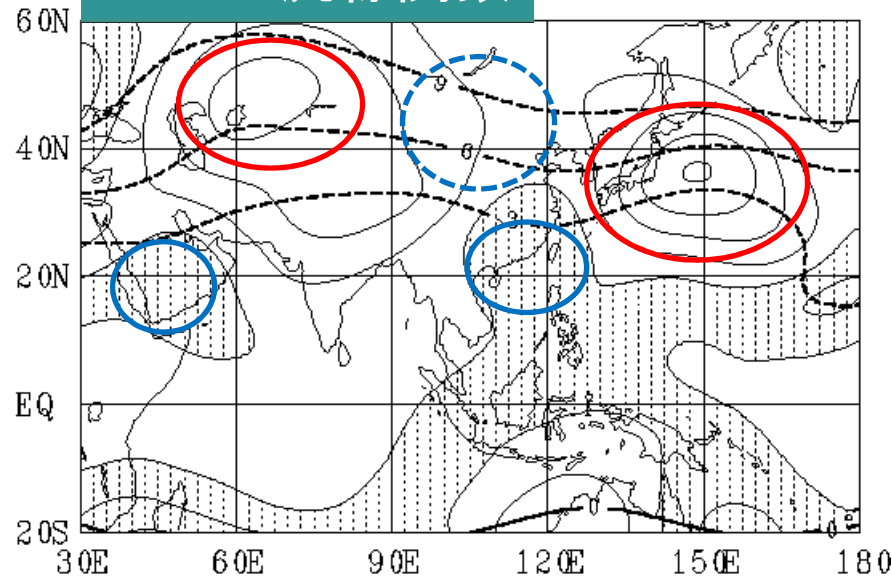
降水量



インド洋東部から南シナ海付近
にかけて多雨偏差、北日本と
東日本太平洋側を中心に多雨
偏差。一方、東シナ海付近と
フィリピンの東では少雨偏差。

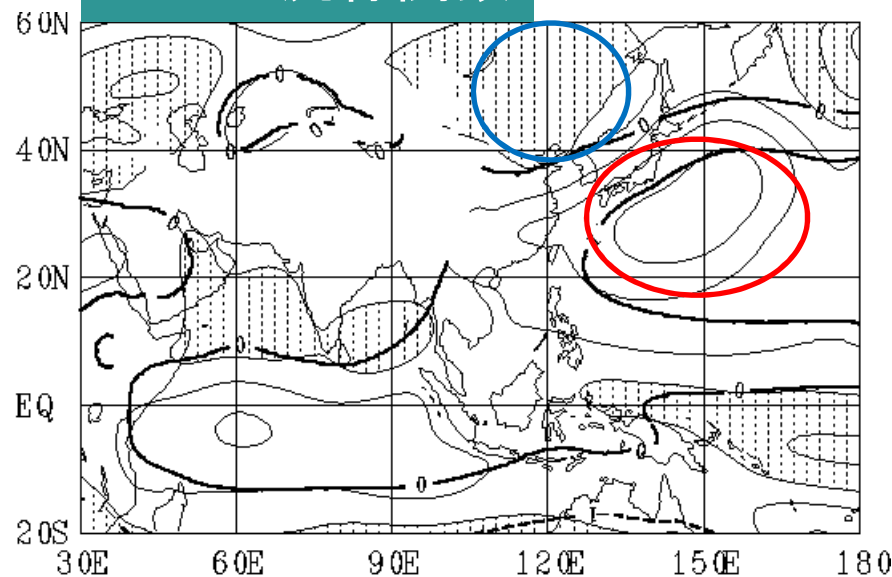
予報資料の解釈 1週目(5/10～5/16)

200hPa流線関数



アラビア半島付近に低気圧性循環偏差、中央アジア付近では高気圧性循環偏差。またバイカル湖付近に相対的な低気圧性循環偏差、南シナ海付近に低気圧性循環偏差、日本の東に高気圧性循環偏差。

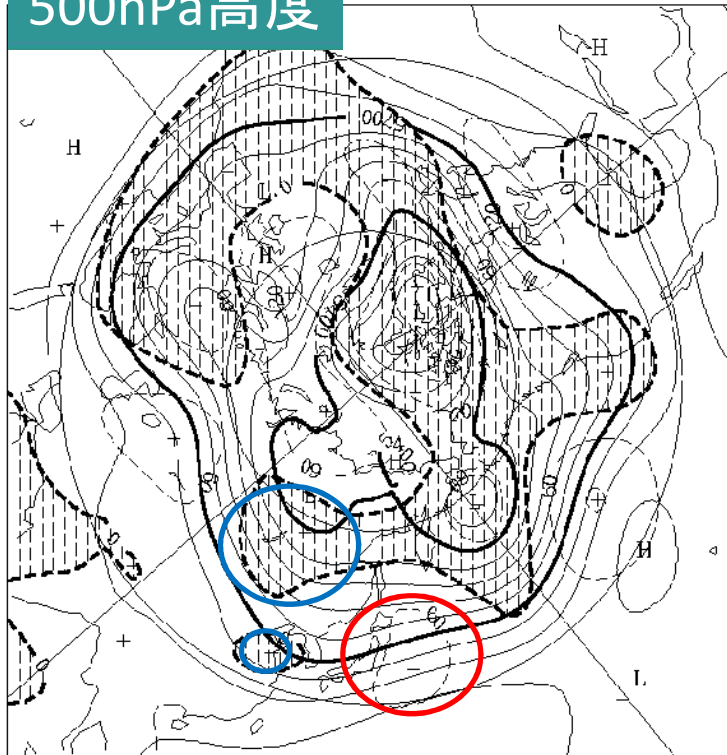
850hPa流線関数



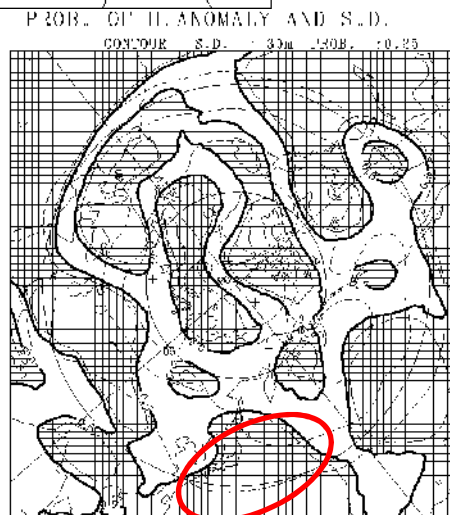
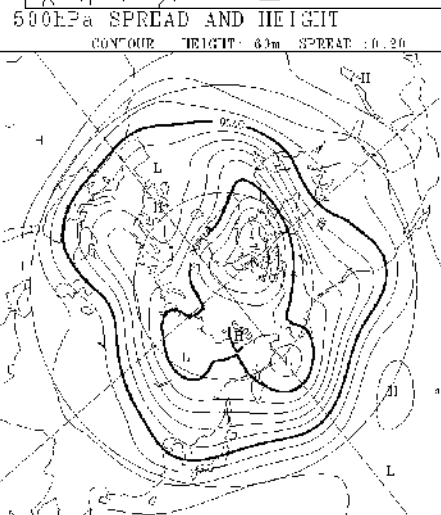
中国東北区付近で低気圧性循環偏差、日本の南東海上に高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。

予報資料の解釈 1週目(5/10~5/16)

500hPa高度



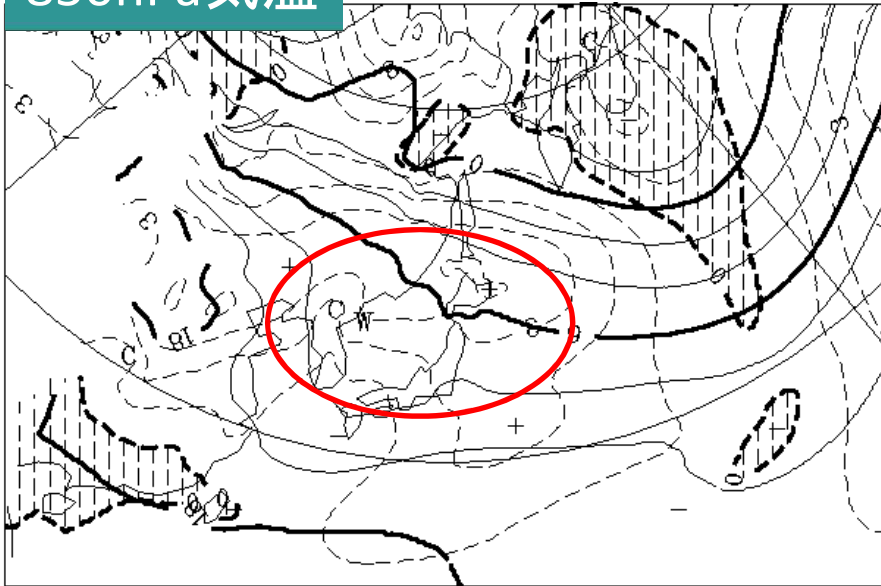
バイカル湖付近と黄海付近で
負偏差、日本の東で正偏差。



日本付近は、正の高偏差確率
50%以上の領域に広く覆われ
る。

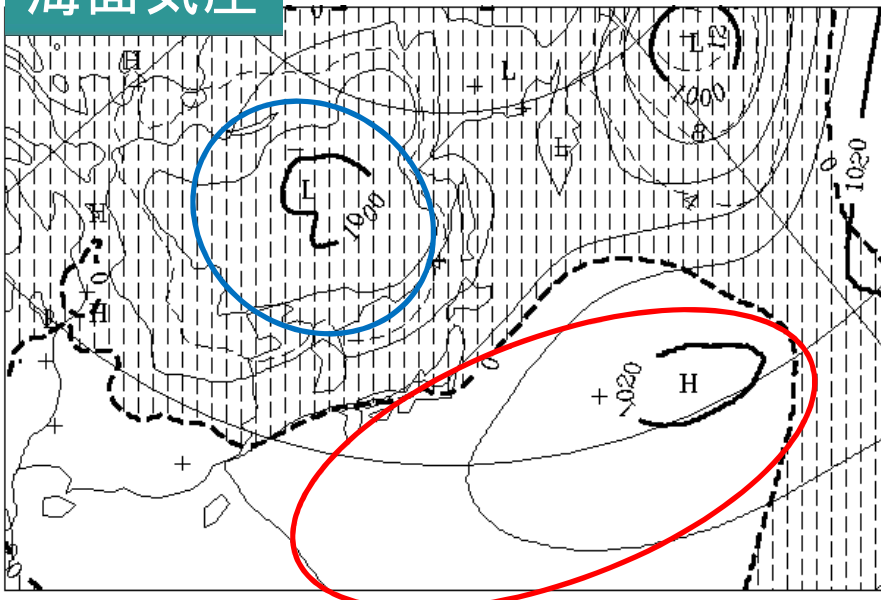
予報資料の解釈 1週目(5/10～5/16)

850hPa気温



日本付近は、北・東・西日本を中心に正偏差に覆われる。

海面気圧



中国東北区付近に低気圧を予測、北日本では低気圧や湿った空気の影響を受けやすい。一方、日本の南東海上にある高気圧の西への張り出しが強まり、東・西日本では、前線や、高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい。

想定される天候

- ・ 北・西日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<気温>

北・東日本では、かなりの高温となる見込み。西日本では高温、沖縄・奄美は平年並。

<天候>

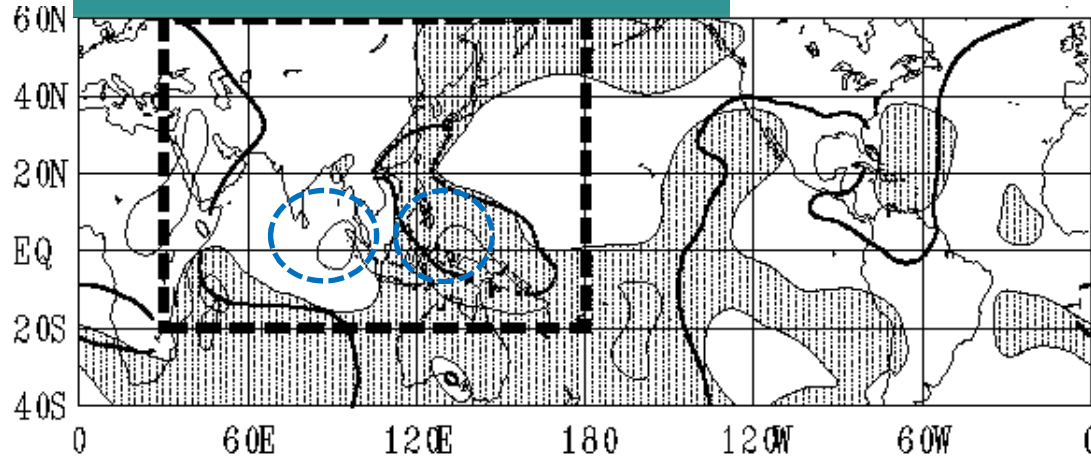
北日本では低気圧による一雨が多いため、多雨傾向、湿った空気の影響をやや受けやすいため、やや寡照。

東日本日本海側、西日本では、前線や湿った空気の影響をやや受けやすいため、やや多雨・やや寡照。

東日本太平洋側では、前線や湿った空気の影響を他の地方より受けやすいため、多雨・寡照。

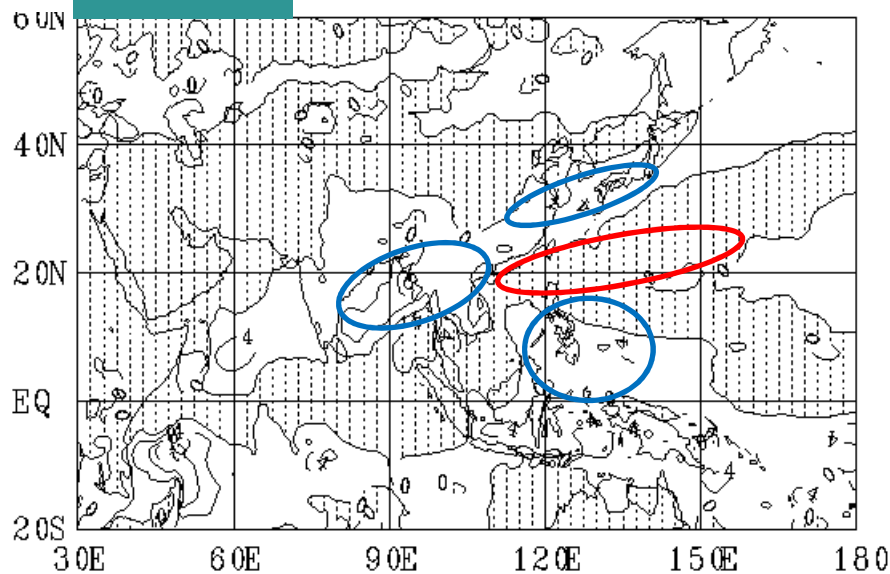
沖縄・奄美では、湿った空気による一雨で、やや多雨。

200hPa速度ポテンシャル



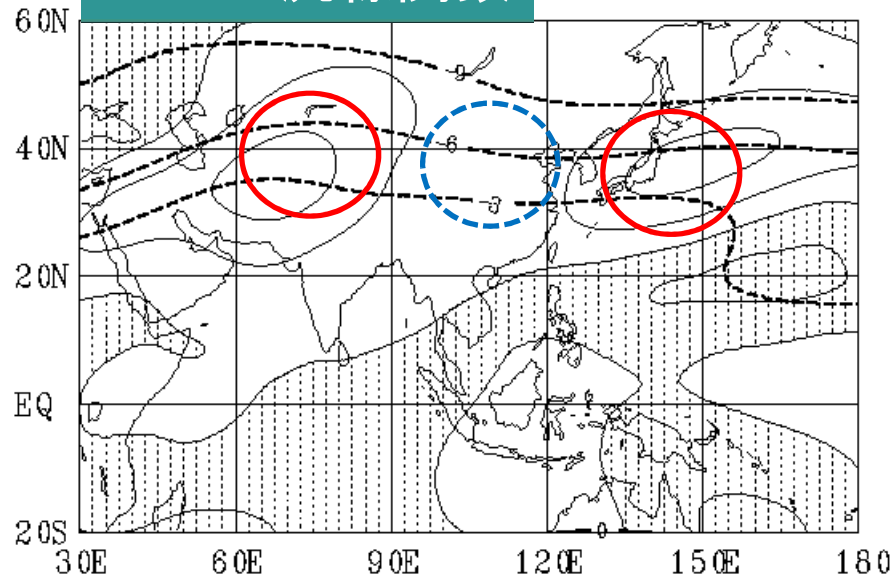
インドネシア付近からフィリピンの東にかけて上層発散偏差。また、インドから東南アジア付近にかけて、弱いながら上層発散偏差。

降水量



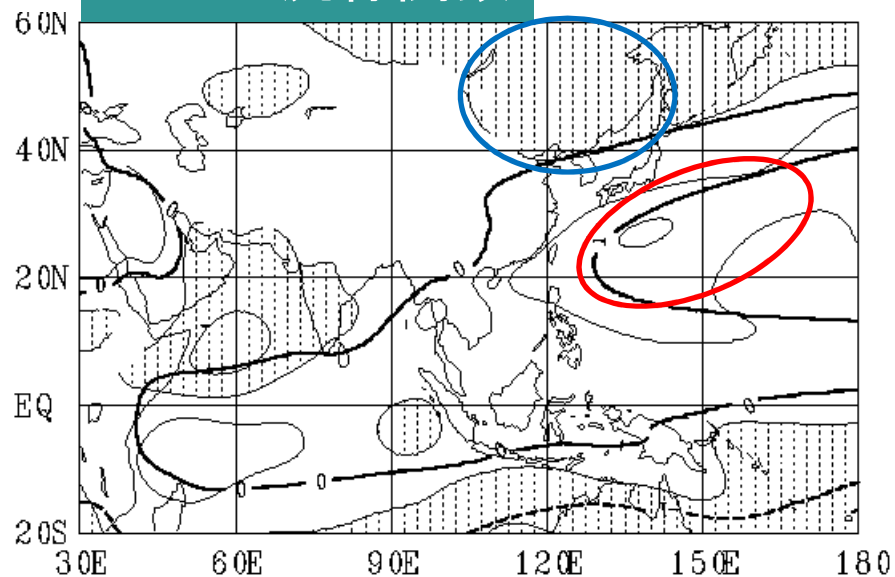
ベンガル湾からインドシナ付近とインドネシアからフィリピン南部にかけて多雨偏差。一方、南シナ海から日本の南にかけて少雨偏差。日本付近では東・西日本を中心に多雨偏差。

200hPa流線関数



中央アジア付近に高気圧性循環偏差、中国東北区付近で相対的な低気圧性循環偏差、日本付近では高気圧性循環偏差。

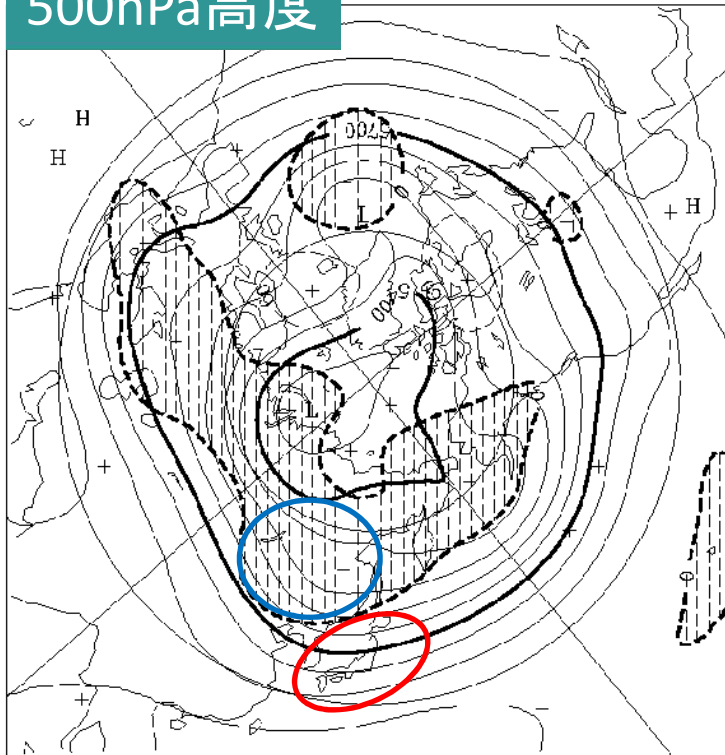
850hPa流線関数



華北付近で低気圧性循環偏差、日本の南東海上に高気圧性循環偏差。

予報資料の解釈 2週目(5/17~5/23)

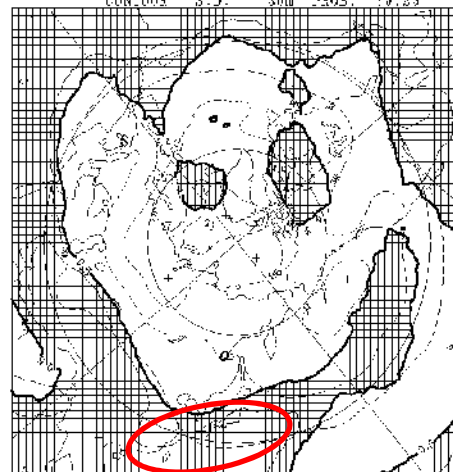
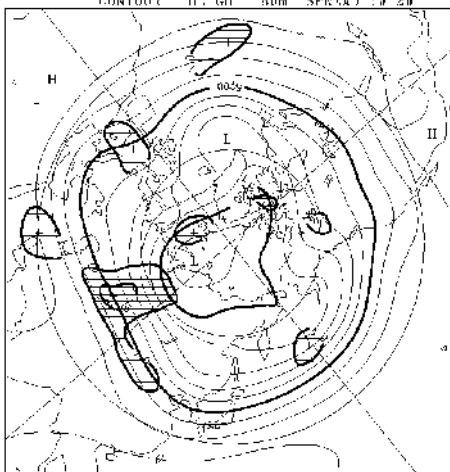
500hPa高度



中国東北区付近で負偏差。日本付近では広い範囲で正偏差。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

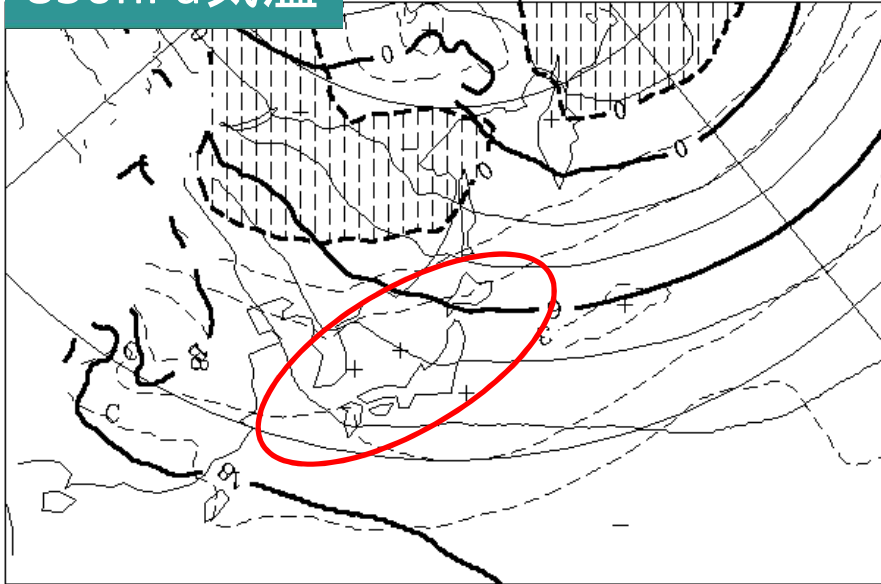
PROB. OF FLAKOM.Y AND S.D.



日本付近は、正の高偏差確率50%以上の領域に広く覆われる。

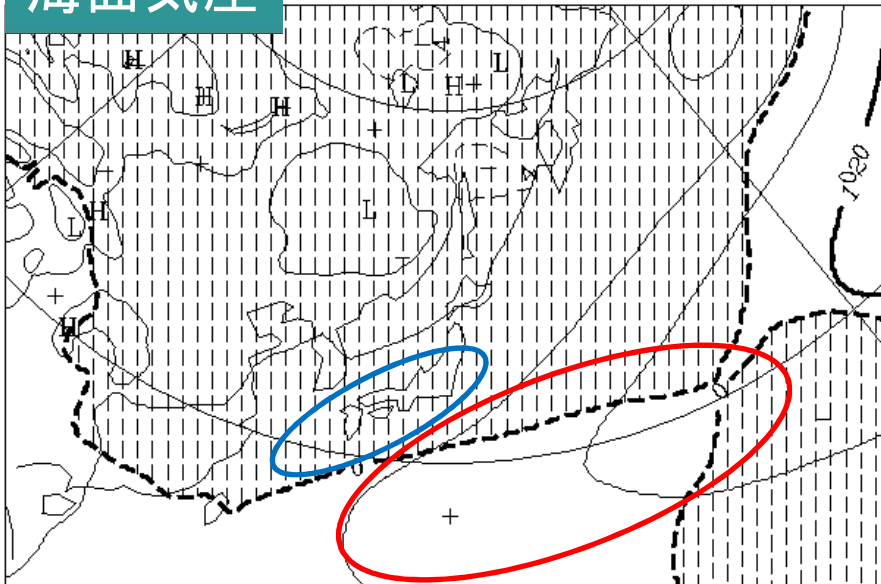
予報資料の解釈 2週目(5/17~5/23)

850hPa気温



全国的に正偏差。

海面気圧



日本の東の高気圧は、1週目より弱まるものの西への張り出しは続く。日本付近は、気圧が低く、東・西日本を中心に高気圧の縁辺を回る湿った空気が流れ込みやすい。

想定される天候

- ・ 北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東日本と西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

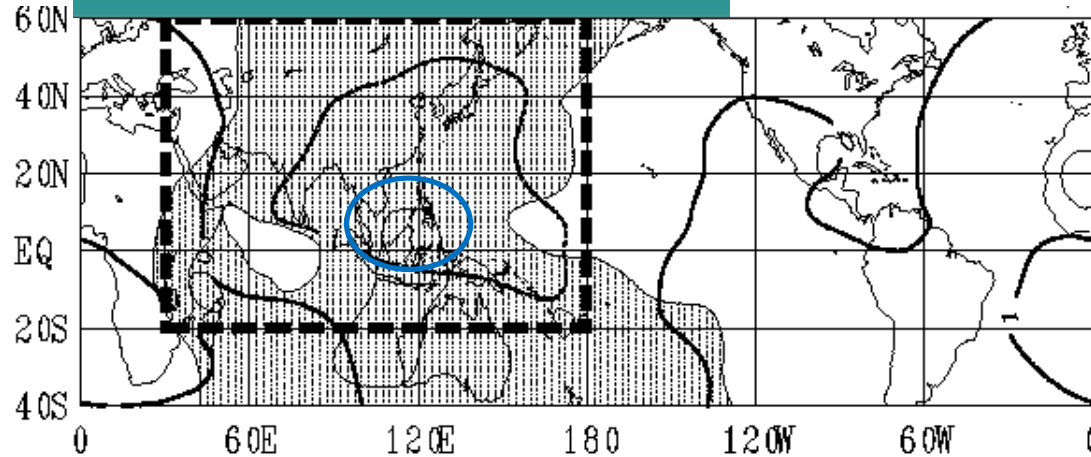
<気温>

全国的に、かなりの高温となる見込み。

<天候>

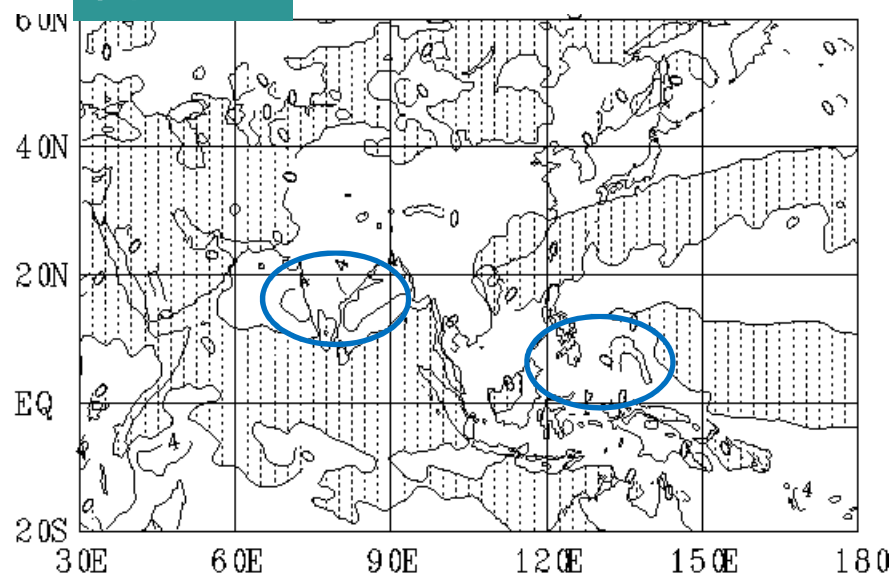
東日本と西日本では、湿った空気の影響を受けやすいため、多雨・寡照傾向。
沖縄・奄美では、湿った空気による一雨が多く、やや多雨。

200hPa速度ポテンシャル



インドネシア付近で上層発散
偏差

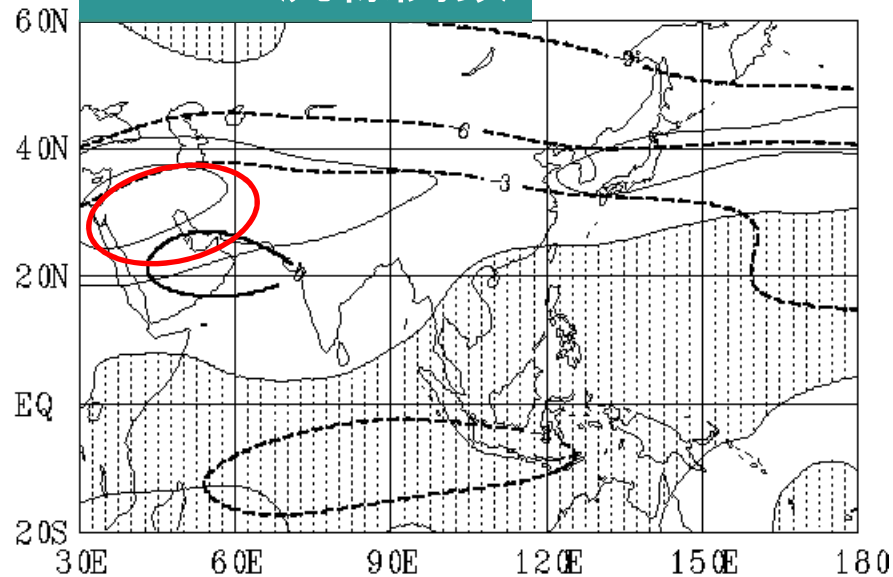
降水量



インドとインドネシア付近で多
雨偏差。日本付近では、偏差
は小さい。

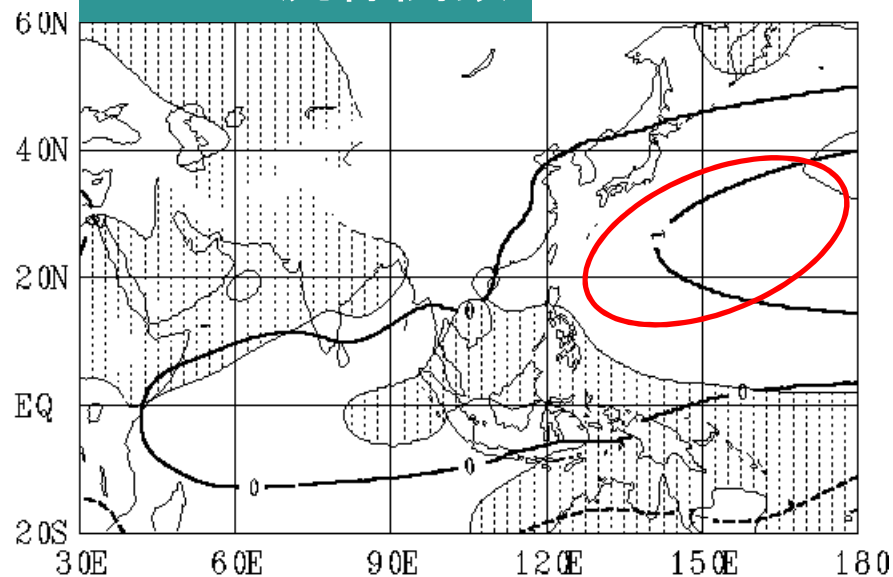
予報資料の解釈 3～4週目(5/24～6/6)

200hPa流線関数



中東付近で高気圧性循環偏差。

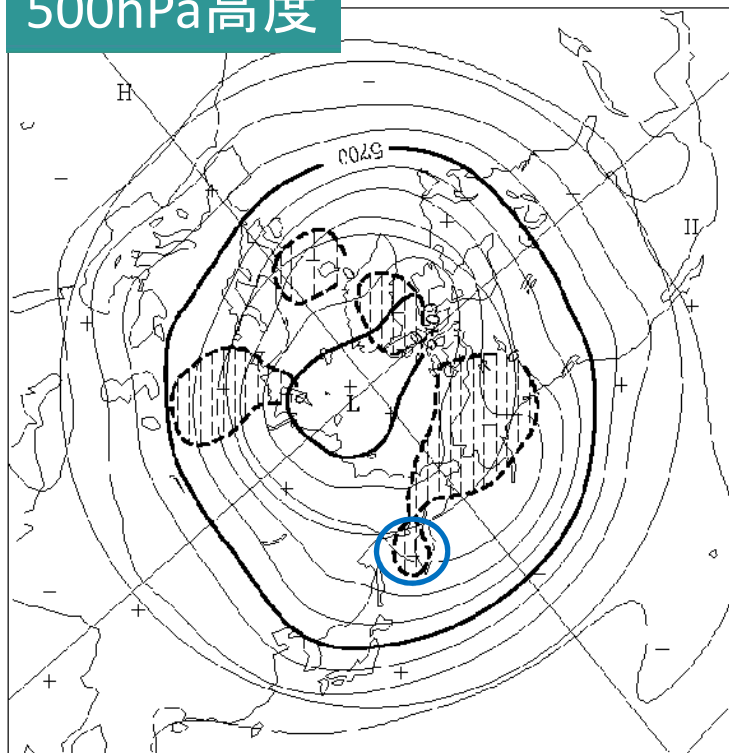
850hPa流線関数



日本の南東海上を中心に高気圧性循環偏差。日本付近では、東・西日本を中心に高気圧の縁辺を回る湿った空気がやや流れ込みやすい。一方、沖縄・奄美では、高気圧にやや覆われやすい。

予報資料の解釈 3～4週目(5/24～6/6)

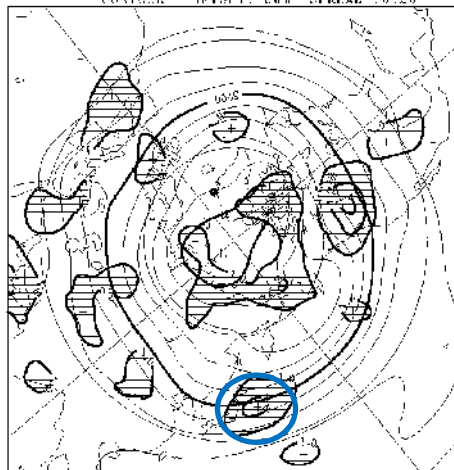
500hPa高度



カムチャツカ半島付近で負偏差。日本付近では平年からの隔たりは小さい。

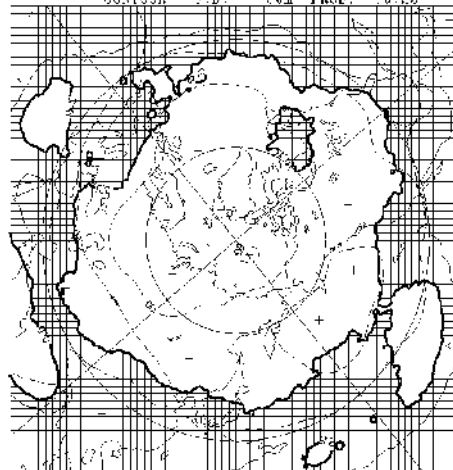
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



PROB. OF 1. ANOMALY AND S.D.

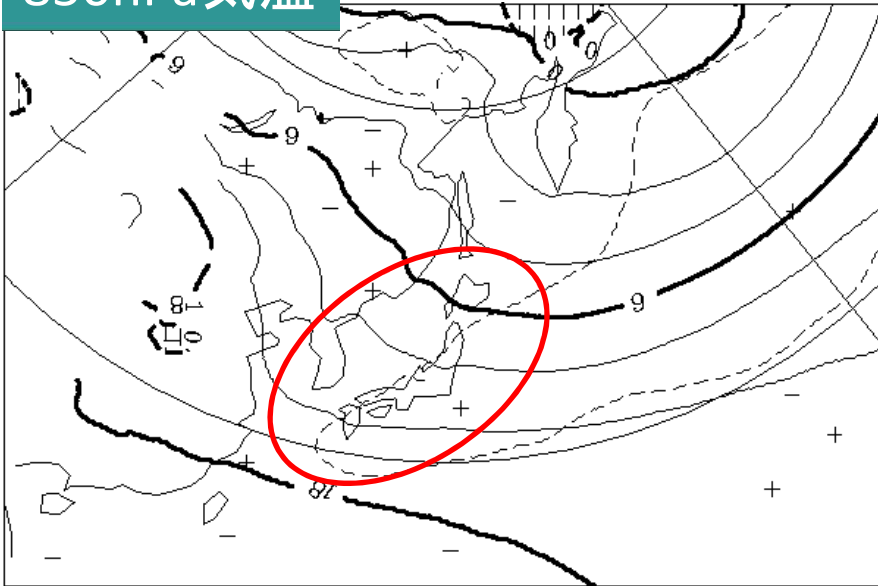
CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25



日本付近ではスプレッドの大きい所があり、予測に不確実性がある。

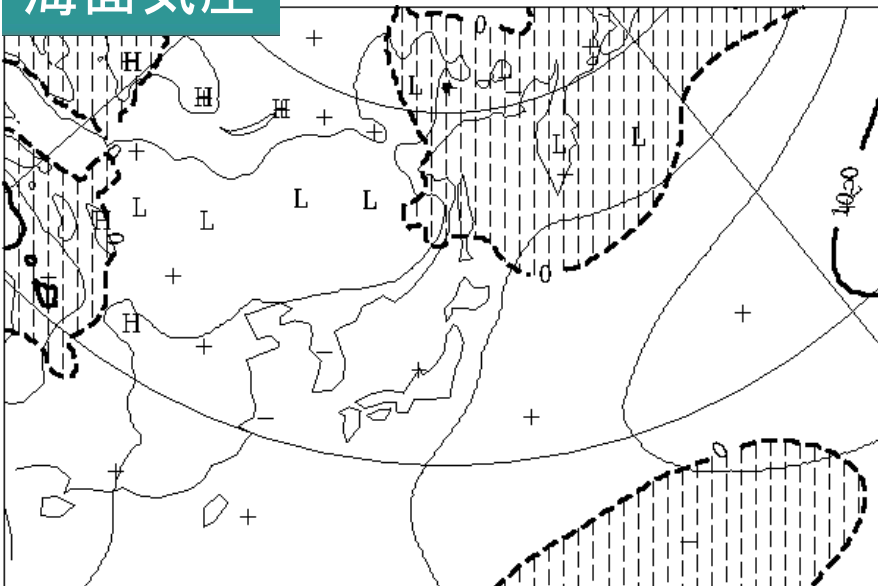
予報資料の解釈 3～4週目(5/24～6/6)

850hPa気温



日本付近は正偏差に覆われ、全国的に暖かい空気に覆われやすい。

海面気圧



日本付近は正偏差だが、平年からの隔たりは小さい。

想定される天候

- ・ 北・西日本と東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<気温>

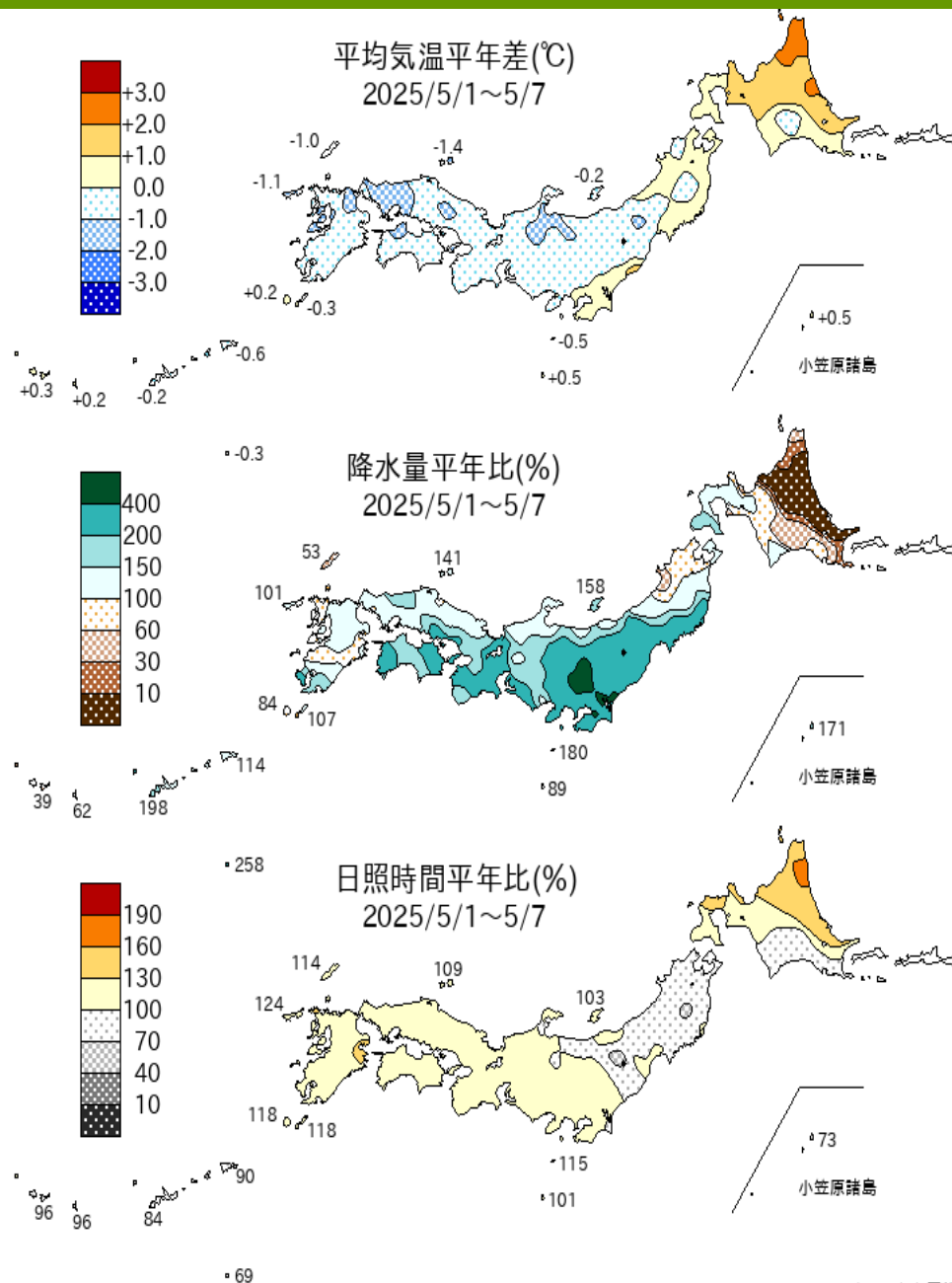
全国的に暖かい空気に覆われやすい。

<天候>

東・西日本では、湿った空気の影響をやや受けやすいため、やや多雨・やや寡照。

沖縄・奄美では、湿った空気の影響をやや受けにくいため、やや少雨・やや多照。

最近1週間の天候経過



最近1週間(5月1日~5月7日)は、全国的に、天気は数日の周期で変わりましたが、東・西日本を中心に高気圧に覆われやすかったことから、日照時間は平年を上回った所が多くなりました。降水量は、東・西日本の太平洋側を中心に、低気圧や前線の影響を受けた時期があり、平年を上回った所が多くなりました。気温は、暖かい空気に覆われた北日本では、平年を上回った所もありましたが、東・西日本と沖縄・奄美では、寒気の影響を受けた日もあり、平年を下回った所が多くなりました。